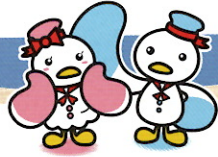


伝言板

No.31 (H31.4)

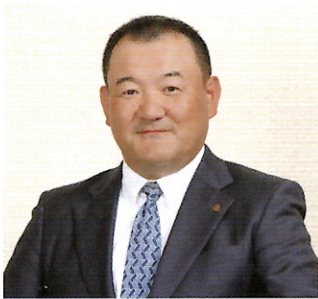


NPO 法人 北海道みなとの文化振興機構

もくじ

設立 15 周年を迎えて……………	1	北海道開発局防災エキスパート(港湾・空港・漁港) ……	9
第 16 回理事会・通常総会……………	2	「着ぐるみ貸付事業」の紹介……………	13
第 15 回みなと座談会……………	5	「みなとまち活性化イベントの助成事業」の募集…	14
みなとパネル展……………	9	平成 31 年度 役員・事務局・支部体制……………	16

設立 15 周年を迎えて



NPO 法人 北海道みなとの文化振興機構

会長 栗林 定正

NPO 法人北海道みなとの文化振興機構は、平成 30 年度で設立 15 周年を迎えました。

この間、会員並びに国土交通省北海道開発局はじめとする関係各位には、当法人の活動に対し大変お世話になりました。

おかげさまをもちまして現在、正会員数は 156 名、61 団体、賛助会員 11 団体となっています。会員各位並びに関係各位には改めて心よりの感謝とお礼を申し上げます。

当 NPO 法人は、それぞれの地域の産業拠点、生活拠点、交流拠点としての役割を果たし歴史的、文化面においてそれぞれ特徴ある魅力を有しているみなとへの愛着を深め、みなとまちの連携によるみなとまちづくりのため、以下の各事業に取り組んできました。

港への理解と利用促進に係る広報活動及び支援事業として、みなとサポート業務では、各開発建設部が開催する「みなと見学会」などにおいて、当法人の「みなとサポーター」が乗船支援、記念グッズの配布、アンケートを主に担当しています。

みなとパネル展はザ・シンポジウムみなと実行委員会が開催するシンポジウムに協賛し、北海道内各港湾の整備状況を示す写真パネルと、当法人の活動状況を紹介するパネルを毎年展示しています。

広報誌「伝言板」の発刊は当法人の活動情報や関連情報を会員に伝えるほか、一般の方々にも港の役割と暮らしとの関わり合いを広く理解していただくため年 2 回発刊しています。

このほか各種イベントで活躍する、ぽーとんくん・べいくりんちゃんの着ぐるみ貸付事業や、イベント時の記念グッズ配布も実施しています。

次に港湾・空港・漁港の防災業務及び災害復旧に係る活動・支援として防災エキスパート支援では、北海道開発局防災エキスパート制度により現在 32 名が登録され、各種研修会や総合防災訓練に参加して研鑽を積み、大規模災害発生時にはボランティアとして港湾・空港・漁港などの整備・管理などの専門知識を活用して支援活動を行います。

昨年 9 月 6 日未明に発生した北海道胆振東部地震においては、支援対応のため北海道開発局港湾空港部より初めての出勤要請があり、困難な状況の中での活動支援に対し国土交通省港湾局長から感謝状が贈呈されました。

まちづくりの推進を図る活動に関する情報収集としてのみなと座談会では「北海道みなとまちづくり女性ネットワーク」と共催で港を核としたまちづくりを女性の視点から考え、各地域の活動を通じた意見交換の場としており、現在 7 地区において活動しています。

このほかネットワーク強化のための当法人の支部長会議等や、情報収集のため関係団体よりの情報発信を積極的に得ています。

その他、目的を達成するために必要な事業への助成活動は、みなとまちの活性化を目指し企画、実施されるイベントなど様々な事業を支援し、みなとまちづくりに寄与することを目的に実施しています。

舟漕ぎ大会を対象とした特定分とそのほかを対象とした一般分を開発建設部の「みなとの相談窓口」を通じて推薦いただくと共に、当法人のホームページで募集要領を公表しています。

今後も各事業を通じて各港の効果的、効率的利用の促進や災害復旧、港を核としたまちづくりなど、みなとの文化振興に少しでもお役に立てれば幸いです。

時代は平成から次の時代へと移り変わりますが、当法人の活動に対する期待、役割は大きくなっていくものと思われま。

これからも北海道のみなとの文化振興のため微力ではありますが活動してまいりますので、会員並びに関係各位のなご協力とご支援をお願い申し上げます。

第 16 回理事会・通常総会

第 16 回理事会・通常総会は、平成 31 年 2 月 20 日(水)北海道立道民活動センター（かでの 2.7）で開催しました。理事会は定数 12 名の内、出席者 10 名（書面表決者 2 名）、通常総会の出席者は、個人会員 156 名、団体会員 61 団体の内、委任状提出者を含めて 201 名が出席しております。会場には、90 名が出席していただきました。

通常総会に先立ち、栗林定正会長から「平素より、わたくしどもの事業活動に格段のご理解とご協力をいただいていますことを厚くお礼申し上げます。

この度 NPO 法人港の文化振興機構は、平成 15 年の事業開始から 15 周年の節目の年を迎えました。当法人は港を作る側と利用する人たちの思いを念頭に置き、港の役割について自由に意見を交わすことのできる環境づくりの考えのもとで発足し、地域の人たち

と学び知恵を出し合い豊かな社会づくりの実現を図って行くこととしております。

現在取り組んでいる主な事業として一つ目は、港の理解と利用促進にかかる広報活動を、二つ目としては、みなと街づくりの支援としてみなと座談会を開催し、更に港湾、空港、漁港の防災業務及び災害復旧に係る支援事業として防災エキスパートの研修会、大規模災害の発生に備えた施設点検等の実施訓

練に取り組んでおり、昨年発生した北海道胆振東部地震では北海道開発局港湾空港部から防災エキスパートに対し出動要請がありお手伝いをいたしました。

今後におきましても多くの方々と共に、自分たちの港と言う思いを大切に活動して行く所存でありますのでどうぞ宜しくお願い致します。」と挨拶がありました。

ご来賓として出席していただきました、北海道開発局港湾空港部長眞田仁様からは「日頃より事業の促進、振興整備など様々な分野でご支援ご協力を賜っていることに感謝申し上げます。

平成30年度は各地の港での事業に関わっていたことに加えて、北海道胆振東部地震に初めて防災エキスパートとして皆様にも参加していただいた。

反省点も多々あると思いますが、これを糧にして

効果的な支援活動ができるように官民をあげてやって行きたい。また当機構が支援しているみなとオアシスでは、みなとオアシス全国協議会が主催するsea級グルメ in 紋別で紋別港がグランプリを受賞し、2018年のポート・オブ・ザ・イヤーにも皆様のご協力を得て選ばれました。もっともっと北海道の港の文化振興を深めていただきたく、私どもも精一杯やりますので皆様と共にこれからも頑張っていきたい。」と挨拶をいただきました。

議案の内容について下記とおり承認されました。

第1号議案（平成30年度事業報告）

1 定款の事業名 港への理解と利用促進に係わる広報活動及び支援

(1)みなとサポート業務

みなと見学会 3港（6日間）、

みんなのパネル展 2港（3日間）



理事会



会長挨拶



来賓挨拶



総会

(2)みなとパネル展

平成30年12月20日(木)「ザ・シンポジウムみなと in 石狩」の開催に協賛して石狩市花川北コミュニティセンターで開催。

(3)広報誌「伝言板」の発刊

29号を平成30年4月、30号を平成30年11月に発刊

(4)着ぐるみ(「ぼーとん」くん・「べいくりん」ちゃん)貸付事業(有償)

イベントなどで9件の利用

(5)記念グッズの配布(無償)

ノート、ボールペン&マーカー、着ぐるみシールを15箇所配布

2 定款の事業名 港湾・空港・漁港の防災業務及び災害復旧に係る活動・支援

(1)防災エキスパート支援

平成30年6月27日(水) 北海道開発局 TEC-FORCE 研修(5名参加)

平成30年7月25日(水) 北海道開発局 TEC-FORCE 研修(5名参加)

平成30年9月5日(水) 風水害による施設点検訓練(2名参加)

平成30年9月8日(土)~9月14日(金) 北海道胆振東部地震災害支援(13名延べ34名参加)

平成30年10月28日(日) 小樽港大規模地震・津波総合防災訓練(4名参加)

平成30年11月13日(火) 北海道開発局防災エキスパート(港湾・空港・漁港)研修(23名参加)

平成30年11月14日(水) 北海道胆振東部地震による災害対応に対し港湾局長から感謝状の授与

3 定款の事業名 まちづくりの推進を図る活動等に関する情報収集

(1)みなと座談会

平成30年10月18日(木) 留萌市で開催(北海道女性ネットワーク会員9名、行政関係者9名、特別講演者1名、当機構9名参加)

(2)ネットワーク強化

平成30年6月12日(火) 当機構の支部長会議(21名参加)

(3)情報収集

4 定款の事業名 その他、目的を達成するために必要な事業

(1)助成活動

平成30年度は一般分9事業、特定分6事業に助成

第2号議案(平成30年度収支決算報告並びに監査報告)

第3号議案(平成31年度事業計画)

1 定款の事業名 港への理解と利用促進に係わる広報活動及び支援

(1)みなとサポート業務

(2)みなとパネル展

(3)広報誌「伝言板」の発刊、ホームページの充実

(4)着ぐるみ貸付事業(有償)

(5)記念グッズの配布(無償)

2 定款の事業名 港湾・空港・漁港の防災業務及び災害復旧に係る活動・支援

(1)防災エキスパート支援

3 定款の事業名 まちづくりの推進を図る活動等に関する情報収集

(1)みなと座談会

(2)ネットワーク強化

4 定款の事業名 その他、目的を達成するために必要な事業

(1)助成活動

第4号議案(平成31年度収支予算計画書)

第5号議案(役員選任について)

任期満了に伴い下記の方々承認されました。

- ・理事(会長) 栗林定正(再任)
- ・理事(理事長) 中村信之(再任)
- ・理事 岩倉博文(再任)
- ・理事 宮崎英樹(再任)
- ・理事 高橋喜一(再任)
- ・理事 上原泰正(再任)
- ・理事 百瀬 治(再任)
- ・理事 小泉信男(退任)
- ・理事 栗田 悟(新任)
- ・理事 川合紀章(再任)
- ・理事 笹島隆彦(新任)
- ・理事 大西育子(再任)
- ・理事 片石温美(再任)

- ・理事 福岡康宣（再任）
- ・監事 吉本靖俊（再任）
- ・監事 柳田秀吉（退任）
- ・監事 中内 勲（新任）

事会長佐伯浩様の乾杯で開始され、結びは当法人大西育子理事の一本締めで盛会のうちに終了しました。

特別報告

通常総会終了後、当機構中村理事長から「15年間の活動を振り返って」と題して報告がありました。パワーポイントを使用して当機構の設立までの経緯、事業の目的、主な活動内容、みなとパネル展、「みなとサポート」制度、「みなと座談会」、助成事業、防災エキスパート活動支援についての紹介がありました。

15周年記念交流会

通常総会終了後、当機構の15周年を記念しての交流会が（一社）寒地港湾技術研究センター代表理



交流会



佐伯様御挨拶



大西理事御挨拶

第15回みなと座談会

当機構は平成16年度から、みなとまちの地域づくりについて考える「みなと座談会」を女性の視点から考え活動している「北海道みなとまちづくり女性ネットワーク」と共催し、年に1度各地で意見交換会を開催しています。15回目に当たる平成30年度は留萌市で、10月18日(木)15時30分から留萌市産業会館で開催しました。

座談会テーマ

昨年度に引き続き「わくわくするみなとまちづくり」をテーマに、全道各地で活躍されている女性ネッ

トワーク代表などから平成30年度の活動報告をしていただき、留萌市、北海道開発局港湾空港部、留萌開発建設部の行政参加者を交え意見交換をしました。

特別講演

株式会社エフエムもえる代表取締役社長佐藤太紀様から「留萌の地域情報受発信・観光・まちづくり」と題して講演をいただきました。

座談会参加者

司会

NPO 法人北海道みなとの文化振興機構理事長
中村 信之
北海道みなとまちづくり女性ネットワーク
北海道みなとまちづくり女性ネットワーク会長
女性みなと街づくり苫小牧代表 大西 育子
みなとまちづくり女性ネットワーク室蘭
代表 立野 了子
みなとまちづくり女性ネットワーク函館
代表 折谷久美子
みなとまちづくり女性ネットワークオホーツク
代表 竹内 珠巳
釧路港おもてなし倶楽部
副実行委員長 金子ゆかり
留萌みなとまちづくり女性ネットワーク
代表 菅原千鶴子
事務局長 堀松 浩子
稚内のみなとを考える女性ネットワーク
代表 岩本 明子
NPO 法人マリネットネットワーク
理事長 片石 温美

特別講演

エフエムもえる 代表取締役社長 佐藤 太紀
留萌市港湾振興課 係長 芦原 尚之

行政機関

北海道開発局港湾空港部
港湾計画課長 松良 精三
港湾計画課調査係主任 今尾 洋平
留萌開発建設部
次長（港湾・農業・水産） 鈴木 一行
築港課長 平良木映光
上席築港専門官（港湾） 中島 秀行
留萌港湾事務所所長 杉山 盛行
第一工務課長 佐々木洋介
計画係長 桑名 智幸

事務局

NPO 法人北海道みなとの文化振興機構

事務局長 福岡 康宣 他8名

座談会概要

主催者を代表して当機構中村理事長から、当座談会はみなとまちづくり女性ネットワークとの共同作業でございます、各地域の女性ネットワークの熱心な活動に敬意を表します。今開催にあたり準備などに協力していただいた留萌みなとまちづくり女性ネットワークの皆様にお礼申しあげますとの挨拶を述べました。



理事長挨拶

来賓を代表して、開発局港湾空港部松良港湾計画課長様から、9月6日未明の北海道胆振東部地震に伴う「入浴・洗濯・給水」支援活動に関する、当機構防災エキスパートの活動に御礼申し上げます。全道のみなとまちづくり女性ネットワークについては、全国的にも珍しく先進的な活動と思います。開発局として、今後も応援を続けてまいります。あわせて、全国に123カ所ありますみなとオアシスについて「NIKKEI プラス1」のなんでもランキングで函館港が3位、紋別港が8位に選ばれています、北海道のみなとオアシスの人気の高さを示していると思いますと、情報提供含めご挨拶をいただきました。

特別講演は佐藤様から、留萌管内の地域情報発信、受信ノウハウについて、パワーポイントとパンフレットを使用して講演をいただきました。職場の先輩の影響でまちづくりに興味を持ったところから始まり、隣人が何をしているのかも分からない状況でまちづくりができるのか疑問を持ち稚内、滝川、小



来賓御挨拶

樽のコミュニティFMを見学し、まちづくりのヒントとなる「エフエムもえる」を開局することにしました。FM放送は全国に約300局、北海道は函館市のFMいるかが第1号で26局前後あります。「エフエムもえる」は、楽しく楽しみながら放送、参加ボランティアとの無理のない支え、会社とボランティアを繋ぐ中立的組織の構築を3本柱に、地域内にとどまらない魅力を発信しています。また、留萌管内のまち紹介パンフレット、観光マップなどについて、地域住民からの生情報の掲載、分かりやすい文章での構成、管内市町村を繋ぐパンフレット制作など受信者に興味をもっていただける内容を目指していますと熱い思いを發表していただきました。



特別講演（佐藤様）

座談会は中村理事長の司会進行で、各地域のみなとまちづくり女性ネットワーク代表から平成30年度の活動について報告をいただきました。数多く活動されている中から、時間の関係もあり代表的な1件をお願いしました。

始めに、「女性みなとまちづくり苦小牧大西代表」から、今回の北海道胆振東部地震時に苦小牧が震源に近いこともあり、全国の女性ネットワークの方々から励ましの電話をいただき、嬉しさと全国のネットワークの方々とも心がつながっていると強く感じました。活動報告は5月19日に行われた港湾施設第1号の苦小牧西港区屋根付き岸壁供用式典に合わせて、殺風景な施設とその周辺をインスタ映えするようにと思い、フラワーポットに季節の花を植え、岸壁周辺に配置しました。

「みなとまちづくり女性ネットワーク室蘭立野代表」からは、6月22日に宮古港からのフェリー就航第1船入港を記念して、当フェリー乗船客に「ヤヤン昆布うどん」を無料で提供しました。うどんの材料は道産品の小麦と地元産のヤヤン昆布に宮古産の塩を使い、トッピングにはホタテ稚貝とウズラ卵を使い、歓迎・友好・おもてなしの気持ちを伝えました。

「みなとまちづくり女性ネットワーク函館折谷代表」からは、8月25日、26日に開催した、第11回みなとオアシスSea級グルメ全国大会 in もんべつに「いかめし」で参戦しました。近年、イカの不漁ため値段が高く、安い材料の入手が困難な状況になってきていて、仕込み数の読み、開催地が遠方ため協力者の確保など不安を抱えながらの参加でしたが、行政機関などのスタッフ応援もあり無事函館に帰ってこられました。

「みなとまちづくり女性ネットワークオホーツク竹内代表」からは、今年度1番のイベントである、みなとオアシスSeaグルメ全国大会 in もんべつについて、開催地として北海道まちづくり女性ネットワークの参加と協力そして行政などの支援にお礼の言葉ありました。準備段階からプレッシャーで眠れない夜もありましたが、どうにか準備は整いました。しかし、大会前の2つの台風接近が大会開催を危ぶませる事態となってしまいました。私は心の中で最悪でも開会式だけは実施すると決めていましたが、幸いにも大会1日目は小雨、2日目は曇り晴れと、参加者、協力者の願いもかなって、予定のスケジュールを無事終了することが出来ましたと、当時の心境を述べていただきました。

「釧路おもてなし倶楽部金子副実行委員長」からは、クルーズ船お出迎え・お見送りを市民が快く何度も参加してくれる方法がないかと以前から色々模索していましたが、その一つとして釧路市、釧路港らしい「お出迎え・お見送り」ソングをお金かけて作りました。地元アーティスト「ヒートボイス」に作曲を依頼、歌詞はおもてなし倶楽部メンバー全員の郷土愛と団結で作りました。お披露目ライブも実施し、お出迎え・お見送り時にはこの曲をスピーカーから流しています。

「留萌みなとまちづくり女性ネットワーク菅原代表」からは、留萌市のイベント「うまいよ！るもい市」併せて留萌港みなと見学会を実施しました。留萌市内を始め、近隣の市町村から140名超の小学生と60代の男女が参加してくれました。船内では、みなとまちづくり女性ネットワークスタッフがウグイス嬢を務め、港の重要性や役割などを説明し普段見慣れない海からの市街地眺望を楽しんでいただきました。最後にアンケート記入に協力していただき、説明が分かりやすく面白かった、勉強になりましたとのアンケートの書き込みを読んで、来年の見学会開催に向け勇気をいただきました。

「稚内のみなとを考える女性ネットワーク岩本代表」からは、開港70年を迎えた稚内港で第16回わっかないみなとコンサートを開催しました。15回も開催していても準備は大変でした。今回は今まで以上に市民参加を意識して、北防波堤ドーム内の特設

ステージで合唱、ダンス、バントなど多くのパフォーマンスを披露してくれました。今回は、ゲストとしてチェンバロ演奏者の「明楽みゆき」さんを招き格式ある音色を披露していただきました。また会場内には、パネル展、出店もあり、楽しい夏の1日になりました。

特別参加者の「NPO法人マリネットワーク片石理事長」からは、大雨災害、地震災害などで、道路網は寸断され易いですが、港は簡単に崩壊しません。今回の北海道胆振東部地震の時も緊急物資を苫小牧港から陸揚し、被災地を運び込んでいます。このような重要な港、みなとまちに住み、奉仕活動を継続されている女性ネットワークの皆様には拍手を送り、今後の活躍を期待しますとの感想をいただきました。

意見交換の場では、オホーツクの竹内代表から、情報誌「港湾」が選ぶ「ポート・オブ・ザ・イヤー2018」に紋別港が、北海道港湾初の受賞に向け名乗りを上げております。室蘭の立野代表からは、宮古港とのフェリー就航の関係もあり、来週、東北地区Seaグルメ大会にハードなスケジュールですが参加しますと、2件の情報などがありました。2時間30分のみなと座談会は予定のスケジュールを消化し終了しました。

翌日の9時からは留萌港湾事務所会議室で北海道みなとまちづくり女性ネットワークの年次総会を開催しました。



座談会



総会

みなとパネル展

NPO 法人北海道みなとの文化振興機構は、一般市民に「みなとの役割、暮らしとの関わり合い」を広く理解していただくため、毎年「ザ・シンポジウムみなと（ザ・シンポジウムみなと実行委員会）」の開催に協賛し、実行委員会の支援を得て「みなとパネル展」を企画開催しています。

平成 30 年度のシンポジウムは北海道胆振東部地震による大規模停電を契機とし「北海道の暮らしを支えるエネルギー拠点石狩湾新港」をテーマに「ザ・シンポジウムみなと in 石狩」として 12 月 20 日（木）14 時から石狩市花川北コミュニティセンターで開催されました。パネル展は同センター 1 階フロアで当機構の「活動内容および設立までの経緯」を紹介したパネル 2 枚、「北海道港湾の紹介」パネル 12

枚、「石狩湾新港港湾計画図」1 枚、「港の変遷」パネル 5 枚、「港湾利用状況」パネル 3 枚、「子供向け港の紹介」パネル 6 枚の 29 枚を展示し、シンポジウムに参加された方々に見ていただきました。

今回のパネル展開催にあたり、北海道開発局港湾空港部、小樽開発建設部、小樽港湾事務所の皆さまのご理解とご協力に厚くお礼申し上げます。



北海道開発局防災エキスパート (港湾・空港・漁港)

新規登録者認定式

平成 30 年 11 月 13 日（火）、北海道開発局港湾空港部長室で、防災エキスパート新規登録者認証式が行われました。今年度は 3 名の方が港湾空港部幹部立会の中、真田仁港湾空港部長より登録通知証の公布を受けました。今年度 4 名の方が退任し、防災エキスパート登録者は 32 名となりました。今後この体制で活動して行くことになりました。



認証式

防災エキスパート研修

今年度の北海道開発局研修は、9月6日発生した北海道胆振東部地震の影響で開催が遅れ、11月13日(火)14時から、北海道開発局苗穂研修所で防災エキスパート23名が参加して開催されました。

主催者挨拶として、真田港湾空港部長からは、地震発生後の9月8日から7日間、大型浚渫船兼油回収船「白山」の入浴などの支援活動、9月5日の台風通過に伴う苫小牧港と白老港の施設点検訓練参加、10月26日の小樽港大規模地震・津波総合訓練の参加について、感謝の言葉をいただきました。また、平成18年4月に防災エキスパート制度が制定されてから今回発出動となりましたが、実際に活動しての反省点や教訓を今後の活動に生かせるよう研修で積極的に意見交換をしていただき、今後いつ発生するかはわからない災害ではありますが、発生した時は速やかに被災地へ駆けつけ、直轄職員のサポートをお願いしますと挨拶をいただきました。



主催者御挨拶

報告議題1とし、平成29年に発生した奥尻港北防波堤の被災状況調査に立会した川村様から、被災箇所が水中部であるため、水中調査に機動力があり、奥尻港で作業をしていた当社に調査依頼がありました。現場は離島であり、人手も足りないため私を含めた応援スタッフを召集し、江差港湾事務所で直轄職員と十分打合せを重ね現地へ乗り込みました。作業にあたり離島を意識して、日々調査項目、方法、それらの結果について順次報告、指示を受け、問題

もなく調査を終了しましたと、報告していただきました。



川村様

報告議題2として、胆振東部地震における防災エキスパートの活動について、現地活動を経験した櫻井様から、出動現場が苫小牧港のため、札幌市内および札幌近郊に住居があるエキスパートに出動要請の声掛けをしました。地震から時間がたっていないこともあり、作業着などの用意ができない、車がない、またはガソリン量が少ない、体力が不安、私事都合が有るなどの返答もあり人選には少し苦労しました。今回の支援活動は交通誘導で、長時間の野外活動となったため、約2時間程度の交代制で行いました。そのため支援人員も多くなりました。また、宿泊、ライフジャケットなどの携帯品確保、昼食の用意など問題もありましたが、良い経験をしましたと報告をいただきました。



櫻井様

報告議題3として、平成30年度の防災エキスパートの活動内容について、防災エキスパートリーダー東様より報告をいただきました。

後半はA班B班に分かれ、胆振東部地震の出動経験を踏まえた防災エキスパート制度の改善点について、A班は直轄職員3名を加えて14名、B班は直轄職員4名を加えて16名で討議しました。

討議の結果について、A班は櫻井様が代表して、①連絡体制については、エキスパートリーダーか、副リーダーへの現行連絡体制が良い。②現地活動における体制については、地区連絡班長の他、出動メンバーの中から班長を定め長期化する場合など、引き継ぎがスムーズになる。③防災エキスパートの活動要領の修正については、色々な出動要請が考えられるが、現状要領内で多くは読み取れるので修正の必要なし。

B班は本間様が代表して、①現状のメンバーは2



討議



結果発表

名であり、連絡が取れない場合も考慮して増員する方向が良い。②現要領には記述されていないが、現地班長を決めて活動するのは良い。③全国的な防災エキスパート活動を見ると、出動内容が多岐に渡っており、要領の追加、修正の必要性を感じる。

以上2班の討議報告で今研修は終了しましたが、胆振東部地震の出動経験から今後の防災エキスパート制度要領などに課題が残りました。

小樽港大規模地震・津波総合防災訓練

開発局と小樽開建は10月28日(日)、小樽港勝納ふ頭で小樽港大規模地震・津波総合防災訓練を実施しました。小樽市、小樽建設協会、日本埋立浚渫協会北海道支部、全国浚渫業協会北海道支部、小樽港湾事務所工事安全連絡協議会、NPO法人北海道みなどの文化振興機構など19機関・団体が参加して避難訓練や航路啓開訓練、被災状況調査訓練などを行い連携を確認しました。

訓練は、地震・津波による災害時の港湾機能の早期回復等に備え、関係機関などとの連携強化および防災意識の高揚を図ることが目的で、当日は、小樽警察署、陸上自衛隊、北海道港湾空港建設協会、港湾技術コンサルタント協会、北海道開発局港湾・空港・漁港防災エキスパートなどから約180人が参加しました。

はじめに、橋本幸小樽開建部長が訓練開始を宣言。続いて、浅輪宇充国土交通省港湾局大臣官房技術参事官が挨拶され「訓練では各機関の取り組みについてももう一度確認を行い、また、他機関との連携強化を図り、さらなる防災能力向上を」と呼びかけました。

訓練では、小樽港沖を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生し、小樽市でも最大震度6弱を観測したと想定。地震発生直後に大津波警報が発表され、最大8メートルの津波が襲来したあと、警報が解除された状況を仮定して防災活動が行われました。

活動項目は、①避難、②漂流者搜索、③港湾巡視、④油防除、⑤航路啓開、⑥被災状況調査、⑦緊急支援物資輸送—の7ケース。開建が実施した油防除去訓練では、海上に油が流失した状況を想定し、港湾



小樽港防災訓練



訓練状況

業務艇から油吸着マットを使用し、回収を行いました。

日本埋立浚渫協会北海道支部、全国浚渫業協会北海道支部、小樽港湾事務工事安全連絡協議会、北海道港湾空港建設協会、などが行なった航路啓開訓練では、航路の障害物となるコンクリートブロックの除去などを海上からクレーンを使用し実施しました。

北海道開発局港湾・空港・漁港防災エキスパートは、直轄職員と連携し、地震によって被災を受けた施設の調査、点検を行いました。

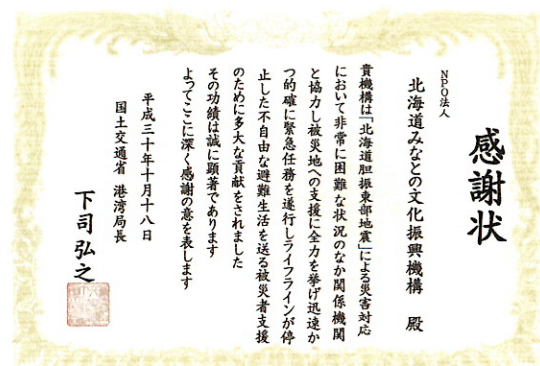
参加者は、連携を取りながら所定の活動を円滑にこなしており、開発局の眞田仁港湾空港部長からは、訓練後「臨場感のある良い訓練が展開されていた、関係機関それぞれ役割と相互連携を確認できたのは有意義で防災意識の向上にも寄与した」との講評をいただきました。

北海道胆振東部地震港湾局長感謝状贈呈式

11月14日(水)、港湾空港部は、札幌第一合同庁舎で北海道胆振東部地震の港湾災害対応で貢献した6団体に対して、国土交通省港湾局長感謝状伝達式が行われた。眞田仁港湾空港部長が、一般社団法人埋立浚渫協会北海道支部、NPO 法人北海道みなとの文化振興機構、北海道開発局防災エキスパート(港湾・空港・漁港)、北海道ポートエンジニアリング協会、一般社団法人苫小牧建設協会、苫小牧測量設計業協会が対象。物資輸送や入浴、洗濯、給水支援への協力、被災施設の点検、測量、応急復旧の取り組みが評価された。式にはみなとの文化振興機構中村理事長、防災エキスパートリーダー東が代表して出席しました。

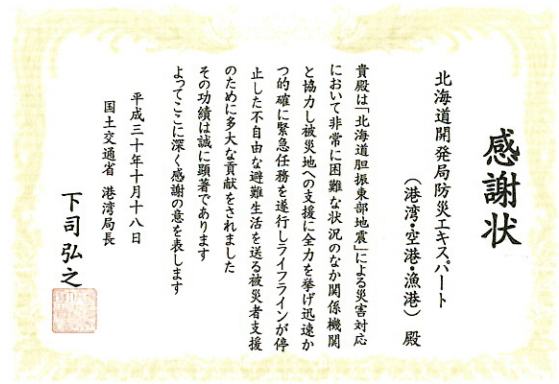


感謝状を受ける中村理事長





感謝状を受ける防災エキスパートリーダー



伝達式

「着ぐるみ貸付事業」の紹介 (みなとのマスコット「ぽーとん」くん、「べいくりん」ちゃん)

北海道のみなとのキャラクター「ぽーとん」くん、「べいくりん」ちゃんの着ぐるみは、みなとが担う役割を多くの皆様にご理解いただくとともに、海やみなとに集う皆様が楽しく過ごしていただくお手伝いキャラクターとして制作しました。海の上を自由に謳歌するかもめを題材に「小さな赤ちゃんかもめ」をイメージした可愛い着ぐるみです。

平成11年に1号を制作し、好評を得たことから2号、3号と制作、平成25年に4号を制作、現在4組を保有し皆様にご利用いただいております。

「ぽーとん」くん、「べいくりん」ちゃんは、NPO法人北海道みなとの文化振興機構が商標登録を行っ

ております。尚、着ぐるみは、有料とさせていただいております。



「ぽーとん」くん・「べいくりん」ちゃん

「みなとまち活性化イベントの助成事業」の募集

NPO 法人「北海道みなとの文化振興機構」では、当機構の目的の一つである「港の効果的、効率的利用の促進や港を核としたまちづくりに係る広報事業を支援する」を図るため助成事業の募集を行います。平成 31 年度の助成事業応募要領は下記のとおりです。

助成事業募集要領

(1)応募要件

道内でみなとまちの活性化をめざし企画・実施されるイベント等において、平成 31 年度に実施予定の本助成を希望する事業とする。

(2)募集期間および応募方法

募集期間は平成 31 年 4 月 1 日(月)から 5 月 7 日(火)までとし、助成を希望する団体は必要事項を記入の上、応募様式を提出する。

(3)助成金額

1 件当たり助成金額は 15 万円を限度とし、みなとの活性化の効果の大きいと考えられる数件を選定する。

(4)評価審査委員会の設置

応募された助成希望の事業につて、審査を行う機関として設置する。

評価審査委員会は当 NPO 法人理事長の指名により構成する。

評価審査委員会の事務は当 NPO 法人事務局が行

う。

評価審査委員会は本年 5 月中旬に開催し、助成を希望する事業について審査し、採択する。

審査結果については、5 月下旬に郵送で通知する。また、当 NPO 法人のホームページ上で公表する。

(5)助成金の支払い

助成金については、助成を受ける団体等に対し、イベント等の開催の 2 週間前までに支払う。

(6)助成を受ける団体の義務

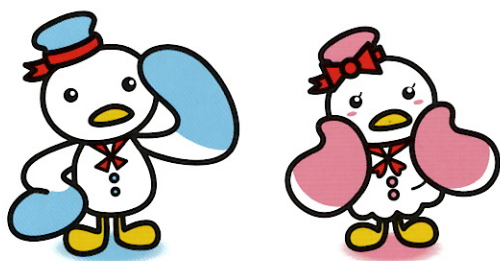
活動を実施するにあたって、「NPO 法人北海道みなとの文化振興機構助成」をうけている旨を明示すること。

(7)報告

実施結果については、実施後速やかに報告様式により提出すること。実施写真を 2 枚以上添付すること。

(8)応募様式及び報告様式

当 NPO 法人ホームページを参照願います。



応募様式（A-4版）

年 月 日

NPO 法人北海道みなとの文化振興機構 御中

団体名
代表者名

平成 31 年度 NPO 法人北海道みなとの文化振興機構助成事業に応募します。

1	事業名	
2	事業の目的	
3	事業の内容と課題等	
4	共催団体および支援団体	
5	開催場所	
6	開催日時	
7	総予算額(見込み)、本助成金の要望金額および内容	
8	スタッフ人数	
9	参加者見込み人数	
10	過去の開催実績	

報告様式（A-4版）

年 月 日

NPO 法人北海道みなとの文化振興機構 御中

団体名
代表者名

平成 31 年度 NPO 法人北海道みなとの文化振興機構助成事業により、下記のとおり事業を実施しましたので報告します。

1	事業名	
2	事業の内容	
3	共催団体および支援団体等	
4	開催場所	
5	開催日時	
6	スタッフ人数	
7	参加者人数	
8	総支出額、本助成金の使用内容	

※実施状況のわかる写真を数枚添付



■平成31年度 役員・事務局・支部体制

平成31年度「特定非営利法人北海道みなとの文化振興機構」役員・事務局・支部体制について

役員

役職	氏名
会長	栗林定正
理事長	中村信之
理事	岩倉博文
理事	宮崎英樹
理事	高橋喜一
理事	上原泰正
理事	百瀬治
理事	栗田悟
理事	川合紀章
理事	笹島隆彦
理事	大西育子
理事	片石温美
理事	福岡康宣
監事	吉本靖俊
監事	中内勲

事務局

役職	氏名
事務局長	福岡康宣
事務局次長	毛利照男
事務局次長	渡辺修司
事務局次長	東志郎
事務局次長	市来隆
事務局次長	渡部優
事務局次長	三原一憲
事務局次長	渥美洋一
事務局次長	秋葉洋一
事務局次長	高田稔年
事務局次長	斉藤賢悦
事務局次長	大前豊
事務局次長	柿崎永己

支部

(敬称略)

役職	氏名
札幌支部長	石島隆司
札幌支部次長	澤合英治
函館支部長	川村求
函館支部次長	鈴木勝晴
室蘭支部長	中野克彦
苫小牧支部長	小山良明
苫小牧支部次長	秋葉洋一
釧路支部長	平山裕義
釧路支部次長	本間久雄

事務局連絡方法

当機構事務局への連絡は、下記のいずれかでお願いします。

Tel : 011-727-3710 Fax : 011-727-3710 E-mail : bunka-npo@kanchi.or.jp

なお、事務局は、常駐体制でないことから、ご返事を差し上げるまで一週間程お時間をいただくこともございますので、何卒ご了承をお願いします。

また、当機構の活動状況は、ホームページでご覧になることができます。

<http://www.minatobunka-npo.info/>

特定非営利活動法人 北海道みなとの文化振興機構

〒001-0011 札幌市北区北11条西2丁目2番17号
セントラル札幌北ビル5F